

ときめき人

Tokimeki bito



空手一筋 つかんだ頂点 さらなる高みへ

中田町・本町畑中

北浦 心太さん

きたうら しんた
2006年生まれ

Profile

中田中在学時は剣道部に所属。コロナ禍で空手の試合が満足にできない中、剣道を通じて精神面を鍛える。息抜きの際にも憧れの空手選手の試合動画を見るなど、自他共に認める空手好き。



相手の動きを封じ、自分が有利な状況に持ち込むことが得意

「とにかく空手が大好きなので、一生涯、空手に関わっていきたいです」。そう話すのは、昨年9月23日、東京武道館で開催された第62回全国防具付空手道選手権大会の一般男子個人の部で、大会最年少となる17歳で優勝を果たした北浦さん。

防具付き空手の宮城県迫支部長を務める母、るみさんと、空手の全国大会常連選手だった11歳年上の兄、大生さんの影響で、幼少期から空手が生活の一部だった。5歳の時、大生さんが大会で獲得した金メダルに心を奪われ、「自分もメダルがほしい」と思い、本格的に空手の修行を始めた。

防具を装着して直接打撃を与える「防具付き空手」と、防具を着用せず攻撃を寸止めする「伝統派空手」の両方を経験。小学生の頃からそれぞれの大

会で優秀な成績を収めてきた。福島県の伝統派空手の名門高校へ進学後、一時は防具付き空手から離れるものの、伝統派空手の全国高校選抜大会で5位に入賞するなど、輝かしい実績を積み上げた。高校での部活動引退を機に、6年ぶりに防具付き空手の大会に挑戦。感覚の違いに苦戦しながらも調整を重ね、熟練の選手が集う一般の部において、大会6連覇中の優勝候補を準々決勝で破り、その勢いそのまま日本一の座をつかみ取った。

大学進学後も空手を続けるという北浦さん。「競技人口もスタイルも変わるので大変だと思いますが、大学でも日本一になれるよう、目の前のこと一つ一つに全力で取り組みます」。意気込みを語るその視線の先には、新たな頂点が見据えられている。

編集後記

▼春の田植え時期から始めたスマート農業の取材。最新機器を使った作業を見学させていただきながら伺った、皆さんの農業に対する思いは、真剣でひたむきで、いつも前向きな笑顔がとても輝いて見えました。取材にご協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました。いきました。(渡邊)

▼年末、一念発起して部屋の大掃除をしました。整理整頓され、ピカピカになった部屋に満足するも、年末年始はごみ収集が休みのため、大量のごみ袋とともに新年を迎えることに…。まとめて大掃除ではなく、普段からの小掃除が大切だと痛感しました。(添田)

▼昨年は元旦に発熱し、インフルエンザに苦しみました。今年も健やかに新年を迎えました。正月に感じたことは、お年玉を渡す親戚がほとんどいなくなったこと。「他の家のこどもは成長が早く感じる」と聞きますが本当ですね。私も少しでも成長できるように頑張ります。(高橋)



登米市公式ホームページ
<https://www.city.tome.miyagi.jp/>



登米市メール配信サービス
(防犯や防災、市政に関する情報などを配信)
<https://plus.sugumail.com/usr/tome/home>



登米市公式 LINE
(市政、イベント情報などを配信)
<https://line.me/R/ti/p/%40972tqqam>

